

## 2009年吉備国際大学国際環境経営学部 専任教員業績一覧（五十音順）

以下は、本学部の専任教員が2009年1月1日から2009年12月31日の間に行った研究および教育、社会貢献活動の一覧です。紀要委員会が専任教員に依頼し、任意の自己申告にもとづいて作成しました。

研究、教育、社会貢献活動は次のように分類しています。①著訳書、②学術論文、③報告書、④学会発表、⑤書評論文、⑥雑誌、⑦新聞、⑧公開講座、⑨放送、⑩講演。

**井勝 久喜**（いかつ ひさよし）

### ②学術論文

- (1) 「環境配慮行動および社会活動の実践と子どもの頃との関連－岡山県内の大学生を対象とした質問紙調査－」（共著）『吉備国際大学研究紀要（国際環境経営学部）』第19号（2009年）、37-46.
- (2) 「環境報告書の内部機能に関する研究」（共著、著者）『吉備国際大学研究紀要（国際環境経営学部）』第19号（2009年）、57-64.
- (3) 「「持続可能な開発」の認知率とその関連要因－岡山市民を対象とした質問紙調査－」（共著）環境教育、18巻3号（2009年）、53-58.

### ④学会発表

- (1) 「森林体験学習を活用した環境教育プログラムの実践とその教育効果について」（連名）日本環境教育学会第20回大会、2009年7月、於：東京
- (2) 「高梁市におけるバイオマス資源の有効活用に関する研究」（連名）日本ビジネスマネジメント学会環境経営研究部会、2009年8月、於：岡山
- (3) 「大学における EA21活動の有効性に関する研究」日本ビジネスマネジメント学会環境経営研究部会、2009年8月、於：岡山（連名）

### ⑩講演

- (1) 「環境問題解決における環境教育のあり方（ワークショップとセミナー）」全国環境青年連盟（エコリーグ）中国ギャザリング、2009年2月21日、於：国立江田島青少年交流の家
- (2) 「環境問題を捉える視点（ワークショップとセミナー）」平成21年度第1回香川県地球温暖化防止活動推進員研修、2009年5月16日、於：ホテルニューフロンティア（高松市）
- (3) 「環境問題の解決策を考える」岡山県立朝日高等学校ボランティア講演会、2009年5月28日、於：岡山県立岡山朝日高等学校
- (4) 「大学で学ぶこと、高校で学ぶこと」岡山県立落合高等学校高大連携事業、2009年6月22日、於：岡山県立落合高等学校
- (5) 「環境問題の解決策を考える－廃棄物処理を中心に－」岡山県立東岡山工業高等学校スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業、2009年12月17日、於：岡山県立東岡山工業高等学校
- (6) 「環境カウンセラーの力量」平成21年度環境カウンセラー研修（中四国地域）、2009年12月5日、於：岡山国際交流センター

## ①その他

- (1) 「環境配慮行動および社会活動の状況とそれらの関連要因」(連名)平成20年度吉備国際大学共同研究報告会、2009年2月
- (2) 「吉備国際大学における環境マネジメントシステムの構築」(連名、発表者)平成20年度吉備国際大学共同研究報告会、2009年2月
- (3) 「森林体験学習を活用した環境教育プログラムの実践とその教育効果について」(連名)第5回高梁学園学術研究コンファレンス、2009年3月
- (4) 「環境経営システム導入の大学一学部による取組」(共著)『吉備国際大学研究紀要(国際環境経営学部)』第19号(2009年)、93-96.
- (5) 「プロジェクトの総評」(単著)環境省平成20年度循環型社会地域支援事業「資源の地産地消で地域コミュニティを再生しますプロジェクト報告書」(2009年)1-2.
- (6) 「～ごみ有料化で見えてきた課題～本気でやれば、ごみは減らせる!!」(単著)岡山市政の今日と明日(わたしたちのまち岡山を考える市民のつどい2008特集)(2009年)103.
- (7) 「環境カウンセラーの教える技術?」(単著)岡山環境カウンセラー協会10周年記念誌(2009年)25-26.

**生駒 俊英** (いこま としひで)

## ②学術論文

- (1) 國府剛、生駒俊英「離婚後における婚姻住居の利用に関して－子どもの福祉に配慮した解決方法(試論)－」、『戸籍時報』637号2-13頁(2009年2月)

## ④学会発表

- (1) 「親子関係不存在確認請求が著しく不当な結果をもたらすとまではいえず、権利の濫用にあたらなとして、請求が認容された事例」末川民事法研究会(2009年9月)、於：京都市

**大谷 卓史** (おおたに たくし)

## ①著書

- (1) 「第10章 世界最初のプログラムは20世紀のものだろうか?」、中根美知代・佐藤賢一ほか『科学の真理は永遠に不変なのだろうか サプライズの科学史入門』ベレ出版、2009年8月、pp.227-250.

## ②学術論文

- (1) 「集団的行為の帰責の目的論的構成－情報倫理的知見からの著作権侵害事例に関する考察」『吉備国際大学研究紀要(国際環境経営学部)』(2009年)第19号1-14(単著)

## ④学会発表

- (1) 「実践報告 文系向け専門基礎科目：メディア論」数学史研究会サマースクール、於：立教大学、8月27日。
- (2) 「公共空間におけるプライバシーとしての匿名性」電子情報通信学会技術・社会と倫理研究会、於：広島大学、12月11日。

## ⑤書評

- (1) 「書評 『ハダカデバネズミ』」『技術と経済』No.503、2009年1月号、2009年1月1日、p.73.
- (2) 「科学批判は疑似科学をよび込むのか?－批判精神なき俗流科学哲学の危険性 サミール・オカーシャ

著、廣瀬覚著、直江清隆解説『1冊でわかる科学哲学』、中島秀人著『社会の中の科学』『メディカルバイオ』2009年1月号、2009年1月1日、p.108.

- (3) 「ブックレビュー 岸啓介著『岸啓介のふしぎフィギュア博物館』『ロボコンマガジン』No.62, 2008年2月14日, p.124.
- (4) 「脳を覗けば本心がわかるか? - 嘘発見器とfMRIを駆動する欲望 ケン・オールダー著、青木創訳『嘘発見器よ、永遠なれ 「正義の機械」に取り憑かれた人々』、河野哲也著『暴走する脳科学 哲学・倫理学からの検討』『メディカルバイオ』2009年3月号、2009年3月1日、p.100.
- (5) 「書評 『描かれた技術 科学のかたち サイエンス・イコノロジーの世界』『技術と経済』No.505、2009年3月号、2009年3月1日、p.61.
- (6) 「ブックレビュー 瀬名秀明著『瀬名秀明ロボット学論集』『ロボコンマガジン』2009年5月号 (No.63), 2009年5月1日, p.132.
- (7) 「進化学のホイッグ史観を批判する 二重過程モデルの進化的意義 ゲアリー・マークス著、鍛原多恵子訳『脳はあり合わせの材料から生まれた』、キース・E. スタノヴィッチ著、椋田直子訳『心は遺伝子の論理で決まるのか 二重過程モデルで見るヒトの合理性』『メディカルバイオ』2009年5月号、2009年5月1日、p.92.
- (8) 「ブックレビュー 萩谷昌己・西川明男『DNA ロボット 生命のしかけで創る分子機械』『ロボコンマガジン』2009年7月号 (No.64), 2009年7月1日, p.126.
- (9) 「人類の欲望と経済は生物システムの「復元力」を破壊するか? ローワン・ジェイコブセン著、中里京子訳『ハチはなぜ大量死したのか』、フィリップ・キュリー、イヴ・ミズレー著、勝川俊雄監訳『魚のいない海』『メディカルバイオ』2009年7月号、2009年7月1日、p.100.
- (10) 「書評 『合意形成の倫理学』『技術と経済』No.510、2009年8月号、p.67.
- (11) 「書評 『美女の骨格 名画に隠された秘密』『技術と経済』No.511、2009年9月号、p.59.
- (12) 「ブックレビュー マリオ・タディ著、松井貴子訳『ダ・ヴィンチが発明したロボット!』『ロボコンマガジン』2009年9月号 (No.65), 2009年9月1日, p.126.
- (13) 「ミラーニューロンの発見と人間観の変容 ジャコモ・リゾラッティほか著、柴田裕之訳『ミラーニューロン』、マルコ・イアコポーニ著、塩原通緒訳『ミラーニューロンの発見 「物まね細胞」が明かす驚きの脳科学』『メディカルバイオ』2009年9月号、2009年9月1日、p.96.
- (14) 「書評 『暴走するセキュリティ』『技術と経済』No.512、2009年10月号、p.59.
- (15) 「『害虫』という自然、広大無辺の微小脳 - 学際知で探る昆虫の世界 瀬戸口明久『害虫の誕生 虫からみた日本史』、神崎亮平『ロボットで探る昆虫の脳と匂いの世界 ファーブル昆虫記のなぞに挑む』『メディカルバイオ』2009年11月号、2009年11月1日、p.92.
- (16) 「ブックレビュー 横尾公敏『妄想戦記 ロボット残党兵』『ロボコンマガジン』2009年11月号 (No.66), 2009年11月1日, p.126.
- (17) 「書評 『インターネットが死ぬ日』『技術と経済』No.513、2009年11月号、p.58.
- (18) 「書評 『思考停止社会 - 「遵守」に蝕まれる日本』『技術と経済』No.514、2009年12月号、p.52.

#### ⑥雑誌記事

- (1) 「メディアの現在史 グーグルブック検索1』『みすず』2009年5月号、pp.4-5.
- (2) 「メディアの現在史2 グーグルブック検索2』『みすず』2009年6月号、pp.4-5.

- (3) 「メディアの現在史 3 「佐藤秀峰問題」」『みすず』2009年7月号、pp.4-5.
- (4) 「メディアの現在史 4 電子マンガの未来」『みすず』2009年8月号、pp.4-5.
- (5) 「メディアの現在史 5 電子書籍端末」『みすず』2009年9月号、pp.4-5.
- (6) 「メディアの現在史 6 未来の教科書」『みすず』2009年10月号、pp.4-5.
- (7) 「メディアの現在史 7 キンドルの『1984』」『みすず』2009年11月号、pp.4-5.
- (8) 「メディアの現在史 8 電子図書館の「公」と「私」」『みすず』2009年12月号、pp.4-5.

⑩講演

- (1) 「YouTube で学ぶ著作権」高大連携事業高梁高校出張講義、2009年12月21日（4回）

岡崎 郁子（おかざき いくこ）

③報告書

- (1) 「日本台湾学会第11回学術大会第6文科会『自由論題報告Ⅱ』」『日本台湾学会ニュースレター』第17号、2009年10月、7頁

小田 淳子（おだ じゅんこ）

②学術論文

- (1) 「簡易測定法で観測された高梁市道路近傍の大気中二酸化窒素濃度について」『吉備国際大学研究紀要（国際環境経営学部）』第19号（2009年）、15-27（共著、第一著者）
- (2) 「おokayama県内7か所で採取した大気粉じん中の多環芳香族炭化水素類の濃度プロファイル」『吉備国際大学研究紀要（国際環境経営学部）』第19号（2009年）、83-90（単著）

③報告書

- (1) 「循環型社会の構築に向けた小売企業向け取り組みガイドラインの策定に関する研究」『財団法人 八雲環境科学振興財団研究レポート集2009』第10号（2009年）、106-113（共著、第一著者）

④学会発表

- (1) 「森林体験学習を活用した環境教育プログラムの実践とその教育効果について」, 第5回高梁学園学術研究コンファレンス（宮崎市, 九州保健福祉大学）, 2009年3月7日（連名発表, 登壇者）
- (2) 「大学生の森林体験学習における教育的効果」, 日本環境教育学会第20回大会（東京都, 東京農工大学）, 2009年7月25日（連名発表, 登壇者）
- (3) 「室内汚染の現状と対策から見る化学物質管理の行方」, 日本ビジネスマネジメント学会環境経営研究部会研究発表会（岡山市, 岡山理科大学）, 2009年8月28日（連名発表）
- (4) 「小売企業に求められる環境配慮取り組みとなにか —消費者意識調査から—」, 日本ビジネスマネジメント学会環境経営研究部会研究発表会（岡山市, 岡山理科大学）, 2009年8月28日（連名発表）
- (5) 「循環型社会の構築に向けた小売企業向け取り組みガイドラインの策定に関する研究」財団法人 八雲環境科学振興財団 平成21年度研究発表会（岡山市, 岡山大学）, 2009年10月30日（連名発表, 登壇者）
- (6) 「小売企業の環境配慮活動の現状と課題」, 岡山理科大学 OUS フォーラム2009（岡山市, 岡山プラザホテル）, 2009年11月20日（連名発表, 登壇者）

**高橋 選哉** (たかはし えりや)

## ①著訳書

- (1) 「第Ⅱ部第4章 非営利組織体の財務諸表体系の変遷」(分担執筆)、『簿記会計の過去・現在・将来』(公益情報サービス) 111-124。

## ②学術論文

- (1) 「新公益法人制度における公益認定：ボランティアの取扱いを中心に」(単著)『吉備国際大学研究紀要(国際環境経営学部)』第19号(2009年)、65-74。  
 (2) 「無償の役務：ボランティアの対価の算定」(単著)『月刊公益法人』第40巻7号(2009年)、4-12。

## ⑥ 雑誌

- (1) 「公益認定におけるボランティアの取り扱い」(単著)『月刊公益法人』2009年3月号(第40巻・第3号)、2009年3月1日。  
 (2) 「非営利組織会計の研究(1)」(単著)『企業会計』2009年3月号(第61巻・第3号)、2009年3月1日。  
 (3) 「非営利組織会計の研究(2)」(単著)『企業会計』2009年4月号(第61巻・第4号)、2009年4月1日。

**眞島 宏明** (まじま ひろあき)

## ①著訳書

- (1) 「商標の実務」単著、レクシスネクシス・ジャパン、2009年1月

## ⑩講演

- (1) 「商標審査対応(類否判断)」日本弁理士会主催・実務修習、2009年2月28日

**宮川 雅充** (みやかわ まさみつ)

## ①著訳書

- (1) 「第3章 リスク・コミュニケーションの技法・第5章 有害化学物質による危機管理事例」(分担執筆・吉川肇子編著)『健康リスク・コミュニケーションの手引き』(ナカニシヤ出版)、2009年、40-94、116-132

## ②学術論文

- (1) 「環境配慮行動および社会活動の実践と子どもの頃との関連－岡山県の大学生を対象とした質問紙調査－」(共著、第一著者)『吉備国際大学研究紀要(国際環境経営学部)』第19号(2009年)、37-46  
 (2) 「環境報告書の内部機能に関する研究」(共著、連名著者)『吉備国際大学研究紀要(国際環境経営学部)』第19号(2009年)、57-64  
 (3) 「『持続可能な開発』の認知率とその関連要因－岡山市民を対象とした質問紙調査－」(共著、第一著者)『環境教育』第18巻3号(2009年)、53-58  
 (4) “Noise sensitivity and subjective health: Questionnaire study conducted along trunk roads in Kusatsu, Japan,” (共著、連名著者) *Noise & Health*, 11 (43), 111-117 (2009)  
 (5) 「地域社会に対する意識とごみ減量行動との関連」(共著、第一著者)『日本家政学会誌』第60巻12号(2009年)、1025-1035

## ③報告書

- (1) 「少年期の家庭教育・自然体験が環境配慮行動に及ぼす影響とその個人差要因」(単著)2007～2008年度科学研究費補助金研究成果報告書(若手研究(B))(2009年)

## ④学会発表

- (1) 「健康影響を引き起こす騒音の生活妨害は何か－成田国際空港周辺における疫学調査結果－」日本音響学会 騒音・振動研究会、2009年7月17日、於：札幌市（連名発表、登壇者）
- (2) 「大学生の森林体験学習における教育的効果」日本環境教育学会第20回大会（東京）、2009年7月25日、於：東京都（連名発表、連名著者）

## ⑩講演

- (1) 「環境とビジネス」高大連携推進進路講演会、2009年7月13日、於：岡山県立落合高等学校
- (2) 「騒音・振動による健康影響について」平成21年度環境計量講習会、2009年11月25日、於：メルパルク岡山

**MERVIÖ, Mika**

## ①著訳書

- (1) Finnish environment and foreign policy: supranationalism, pragmatism and consensus- building. Chapter 8. In, *Environmental Change and Foreign Policy: Theory and Practice*. (Paul Harris ed.) Routledge Advances in International Relations and Global Politics. London and New York: Routledge 2009; 121-135.

## ②学術論文

- (1) Domestic violence: political and ethical analysis of power relationships. 『国際社会学研究所研究紀要』. 第17号（2009）：13-38（単著）

## ④学会発表

- (1) Japanese environmental history: narratives of sustainability. Paper presented at the First World Congress of Environmental History 2009, Copenhagen, August 2009 (Panel convenor:MERVIÖ, Mika)

**村本 茂樹（むらもと しげき）**

## ②学術論文

- (1) 村本茂樹、中西俊晶:環境水保全のための下水処理事業とその課題－岡山県の市町村におけるケーススタディー、『吉備国際大学研究紀要（国際環境経営学部）』、第19号、47-56（2009）

## ⑧公開講座

- (1) 「高粱の水と自然」－健全な水と病める水－、2009年7月1日、岡山県生涯学習講座（大学院コース）、吉備国際大学
- (2) 「水の健康と私たちの暮らし」、2009年11月 7日、岡山コンソーシアム（吉備創成カレッジ）、山陽新聞社
- (3) 「健全な水・病める水」、2009年11月14日、岡山コンソーシアム（吉備創成カレッジ）、山陽新聞社
- (4) 「快適な水環境づくり」、2009年11月21日、岡山コンソーシアム（吉備創成カレッジ）、山陽新聞社

## ⑩講演

- (1) 「見直そう、食料と農業」－21世紀のキーワードは水・食料・エネルギー・環境－、2009年7月9日、岡山県立久世高等学校「環境講演会」

## ⑪その他（地域貢献）

岡山県ごみゼロ社会推進委員会委員（副会長）

高梁市まちづくり推進委員会顧問

笠岡市廃棄物処理推進委員会委員（委員長）

森 一憲（もり かずのり）

②学術論文

- (1) 「中国の技術導入と法制度」(単著)『吉備国際大学研究紀要（国際環境経営学部）』第19号（2009年）、  
75-82

①その他

高梁市情報公開個人情報審査会副会長として地域行政に貢献した。